

3 特殊分類別（財別）鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き

1 最終需要財

平成 16 年の県内最終需要財の生産指数は96.0で、対前年比5.3%上昇しました。（表4）

また、在庫指数は96.0で、対前年比8.0%低下しました。（表6）

1-1 投資財

平成 16 年の県内投資財の生産指数は94.6で対前年比3.8%上昇しました。（表4）

また、在庫指数は94.3で対前年比6.9%低下しました。（表6）

1-1-1 資本財

平成 16 年の県内資本財の生産指数は100.5で、対前年比9.2%上昇しました。（表4）

四半期別に見ますと、1期は93.9(対前期比9.8%増)、2期は102.9(同9.6%増)、3期は103.5(同0.6%増)、4期は101.8(同1.6%減)となります。（表8）

また、在庫指数の年平均は109.6で、対前年比9.8%低下しました。（表6）

四半期別に見ますと、1期は115.8(対前期比11.8%減)、2期は101.5(同12.3%減)、3期は109.7(同8.1%増)、4期は113.1(同3.1%増)となります。（表10）

1-1-2 建設財

平成 16 年の県内建設財の生産指数は88.1で、対前年比2.2%低下しました。（表4）

四半期別に見ますと、1期は88.5(対前期比3.0%減)、2期は84.4(同4.6%減)、3期は88.4(同4.7%増)、4期は91.2(同3.2%増)となります。（表8）

また、在庫指数の年平均は78.8で、対前年比2.4%低下しました。（表6）

四半期別に見ますと、1期は80.4(対前期比2.0%増)、2期は80.3(同0.1%減)、3期は77.1(同4.0%減)、4期は77.5(同0.5%増)となります。（表10）

1-2 消費財

平成 16 年の県内消費財の生産指数は97.8で、対前年比7.1%上昇しました。（表4）

また、在庫指数は98.1で、対前年比9.2%低下しました。（表6）

1-2-1 耐久消費財

平成 16 年の県内耐久消費財の生産指数は99.0で、対前年比11.2%上昇しました。（表4）

四半期別に見ますと、1期は100.0(対前期比11.4%増)、2期は86.9(同13.1%減)、3期は102.9(同18.4%増)、4期は104.6(同1.7%増)となります。（表8）

また、在庫指数の年平均は103.2で、対前年比8.8%低下しました。（表6）

四半期別に見ますと、1期は97.6(対前期比18.5%減)、2期は101.4(同3.9%増)、3期は97.7(同3.6%減)、4期は117.5(同20.3%増)となります。（表10）

1-2-2 非耐久消費財

平成16年の県内非耐久消費財の生産指数は96.0で、対前年比1.3%上昇しました。(表4)

四半期別に見ますと、1期は96.4(対前期比2.5%減)、2期は94.9(同1.6%減)、3期は96.2(同1.4%増)、4期は96.3(同0.1%増)となります。(表8)

また、在庫指数の年平均は84.5で、対前年比10.5%低下しました。(表6)

四半期別に見ますと、1期は87.9(対前期比5.8%減)、2期は84.9(同3.4%減)、3期は83.7(同1.4%減)、4期は81.8(同2.3%減)となります。(表10)

2 生産財

平成16年の県内生産財の生産指数は142.8で、対前年比21.2%上昇しました。(表4)

また、在庫指数は321.6で、対前年比67.6%上昇しました。(表6)

2-1 鉱工業用生産財

平成16年の県内鉱工業用生産財の生産指数は143.9で、対前年比21.6%上昇しました。(表4)

四半期別に見ますと、1期は133.2(対前期比2.6%増)、2期は144.0(同8.1%増)、3期は153.2(同6.4%増)、4期は144.3(同5.8%減)となります。(表8)

また、在庫指数の年平均は330.3で、対前年比69.2%上昇しました。(表6)

四半期別に見ますと、1期は215.2(対前期比57.4%増)、2期は364.9(同69.6%増)、3期は320.1(同12.3%減)、4期は447.5(同39.8%増)となります。(表10)

2-2 その他用生産財

平成16年の県内その他用生産財の生産指数は88.1で、対前年比2.5%低下しました。(表4)

四半期別に見ますと、1期は92.4(対前期比3.0%増)、2期は87.8(同5.0%減)、3期は86.8(同1.1%減)、4期は85.3(同1.7%減)となります。(表8)

また、在庫指数の年平均は78.7で、対前年比20.0%低下しました。(表6)

四半期別に見ますと、1期は87.5(対前期比7.7%減)、2期は78.1(同10.7%減)、3期は74.4(同4.7%減)、4期は75.0(同0.8%増)となります。(表10)



「季節調整」 とは？

指数には「原指数」と「季節調整済指数」の2種類がある事にお気づきでしょうか？

例年、年末年始のある12月、1月、ゴールデンウィークのある4、5月、お盆休みのある8月は勤務日数が少ない為、生産活動が低下するといわれていますが、本当にそれを生産水準の低下と考えて良いのでしょうか？

鉱工業の生産は、季節的な要因や社会的慣習等により1年を周期として変動するので、前月や前四半期との比較を行う場合には、そのような季節要因をとり除く必要があります。これを「季節調整」といいます。